

第5回 宮崎海岸侵食対策検討委員会

目次

1. これまでの委員会の経緯
2. 宮崎海岸侵食対策の新体制

国土交通省・宮崎県
平成21年3月11日

これまでの委員会の経緯

これまでの委員会の経緯

第3回委員会までの共通認識

□ 侵食対策は必要

- 現状でも侵食は進んでいる事から、何らかの対策は必要。

□ どのような侵食対策を採用するにしても養浜は必要不可欠であるため、当面は試験養浜主体でモニタリング調査を並行して実施。

- モニタリングでは、主に養浜の材料、投入場所、施工方法等の違いが、地形変化、環境、利用に与える効果・影響を調査。

これまでの委員会の経緯

第4回委員会議事要旨(結論)

- 前委員会での検討結果「侵食対策の考え方」
(砂浜による防護効果を発揮させる)を踏まえた上で、本委員会を進める。
- 技術分科会を立ち上げて侵食対策について技術的な検討をする。
- 懇談会などで広く意見を聞くことと、迅速な情報提供をする。

宮崎海岸侵食対策の新体制

(1) これまでの宮崎海岸侵食対策検討の経緯

懇談会、勉強会等で頂いた意見

(2) 宮崎海岸侵食対策の2本の柱

宮崎海岸トライアングルと宮崎海岸ステップアップサイクル

(3) 宮崎海岸トライアングル(三者一体となって考える)

行政・市民・専門家、それぞれの役割と責任

「海岸よろず相談所」と「ご意見箱」

「宮崎海岸市民談義所」の設置について

(4) 宮崎海岸ステップアップサイクル(効果を確認しながら着実に進める)

(1)これまでの宮崎海岸侵食対策検討の経緯

平成18年度まで

宮崎県による

○「住吉海岸技術検討委員会」 計6回開催

○「住吉海岸保全施設計画策定における懇談会」
計4回開催

平成19年度～

宮崎県と国による

○ 6月より 宮崎海岸懇談会 現在まで5回開催

○ 8月より 宮崎海岸侵食対策検討委員会

今回で5回開催

○12月より 海岸勉強会

現在まで14回開催

懇談会等でいただいた主な意見①

《対策の実施、検討について》

- 多くの方が砂浜の維持を希望している。
- 砂浜が無くなってしまっているところに、なんとか早く手を打ってほしい。
- 海岸を保全するために早く事業が進んでいくことを望む。
- 何らかの侵食対策を要望しているが、工法や目標について様々な意見。
- もっと時間をかけて抜本的対策を議論すべき。

- 一ツ葉有料道路料金所南側の侵食がひどい箇所の対策をするべき。
- 港は既に宮崎県の経済や住民の生活に組み込まれた重要な施設であるので、宮崎港の改良等による侵食対策も考えてほしい。
- 港を撤去するのが抜本的な対策になる。

- 高鍋など周辺海岸の人にも危機(侵食)を呼びかけていくべき。

- 国内外の様々な学識者の意見をきくべき。

懇談会等でいただいた主な意見②

《対策工法について》

- 港湾にたまった土砂を養浜に使えないか。
- 日本や海外での養浜の成功例・失敗例の結果を参考にして実施してもらいたい。
- 砂の動きが解明されてから養浜をするべきではないか。
- 養浜については賛成の人も多いが、ヘッドランドについては様々な意見。
- ヘッドランドの形状についてもよく検討してほしい。
- サンドバイパスや、サンドパックなども考えてほしい。
- コンクリートは入れてほしくない。
- 植生などによる侵食対策も考えてほしい。

《環境、利用への配慮について》

- 海岸に住む生き物に対する配慮が必要。
- サーフィンなどの利用に対する配慮が必要。
- 構造物の有無に関わらず海浜利用の安全性について配慮が必要。

今後の市民参加についての意見

《勉強会（多様な意見の認識と知識の共有の場）での意見》

- よかったこと
 - それぞれの立場からの意見があることがわかった。
 - 色々の立場の思い、考えがわかって良かった。多様な意見が聞けることは、大変良い。
- こうすればもっと良くなる
 - 先進的な行政の取り組みがほしい。
 - もっといろいろな人の話がききたい。専門家だけではなく地元住民の語り部的なもの。
 - 12回の勉強会が行われたが、貴重な意見が委員会に提案されていない。国土交通省の役割をしっかりといただきたい。

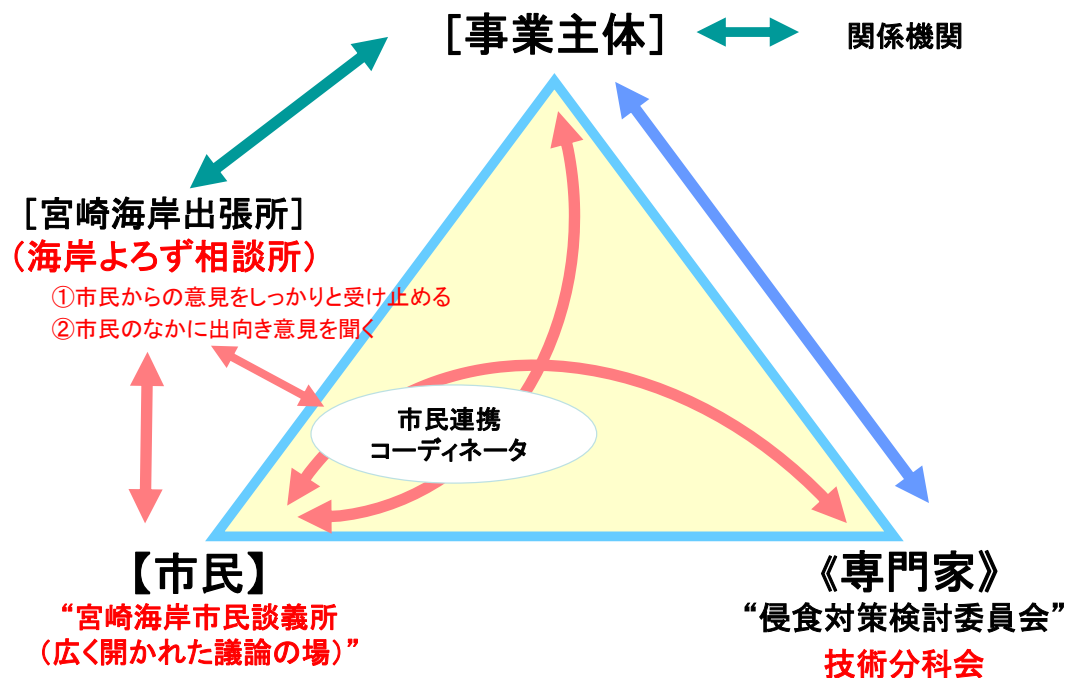
《懇談会での意見》

- ・市民と行政のコミュニケーションの場として十分機能が果たせていない

(2) 宮崎海岸侵食対策の2本の柱

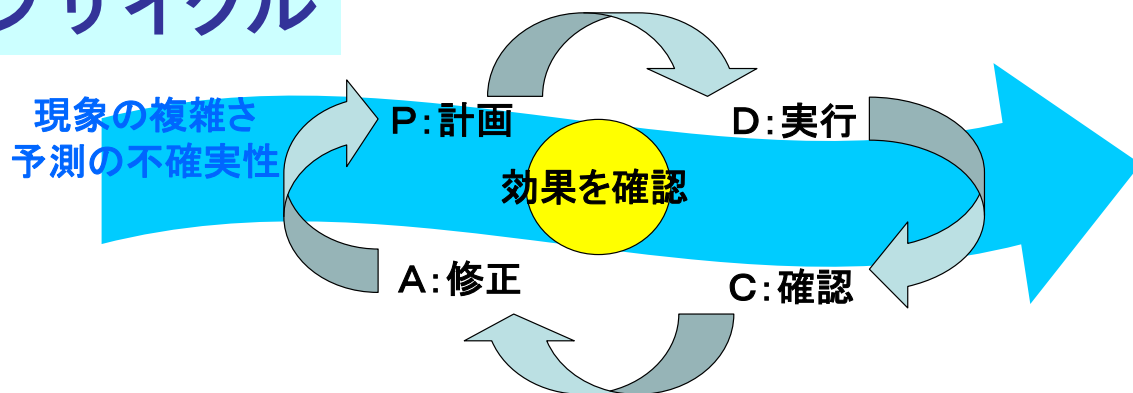
勉強会の意見を踏まえて

宮崎海岸トライアングル



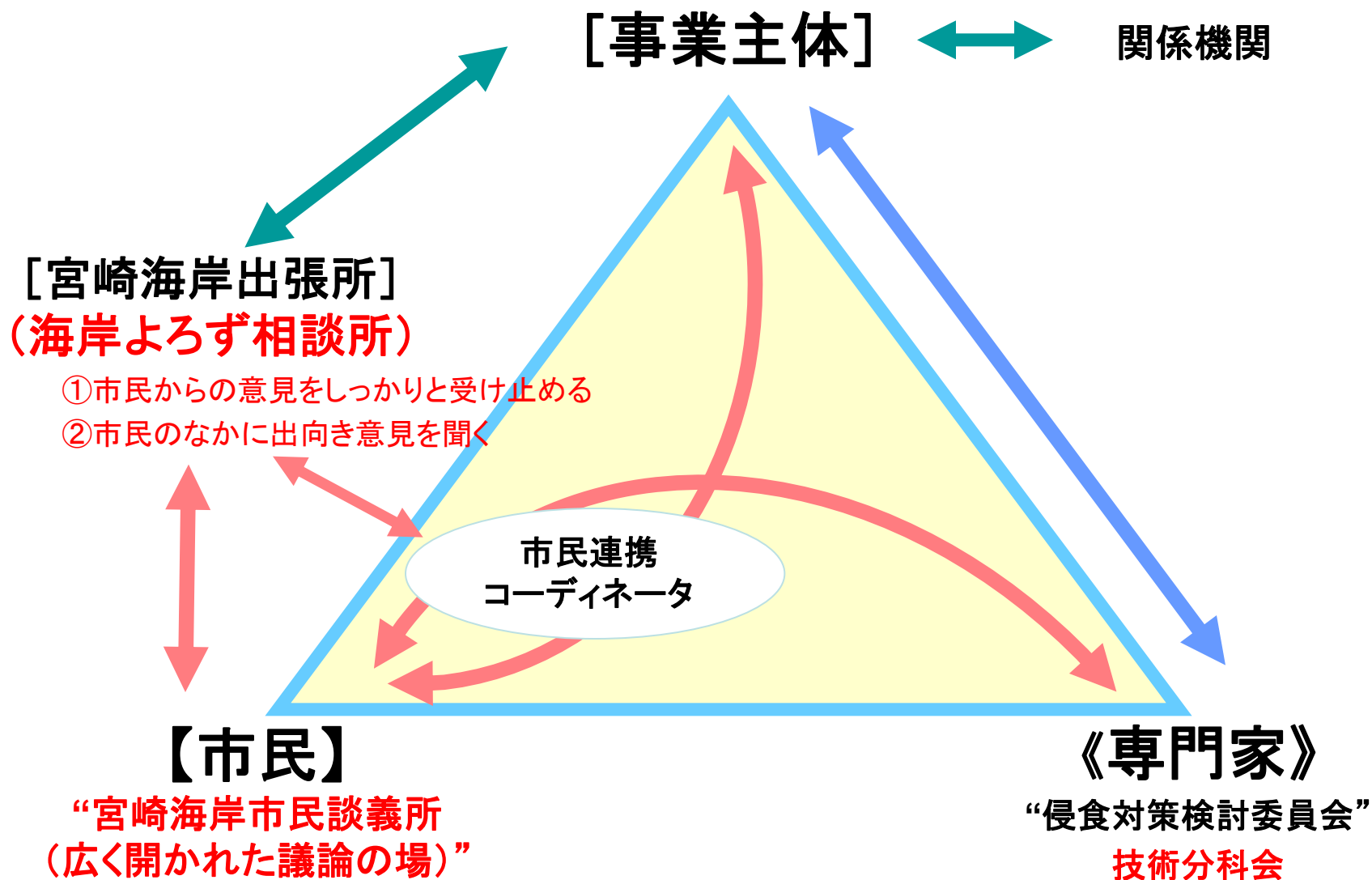
懇談会の意見を踏まえて

宮崎海岸ステップアップサイクル



(3) 宮崎海岸トライアングル

行政・市民・専門家、三者一体となって考える



それぞれの役割と責任

事業主体

市民からの多様な意見を反映した案(複数)を専門家に提示し、検討を依頼する。また、専門家からの助言をもとに、**責任ある意思決定**をする。

専門家

事業主体からの案に対して、事業主体に**技術的・専門的な立場**から助言する。

市民

お互いを理解・尊重しながら**多様な意見**を出し合い議論を深める。

コーディネータ

市民からの多様な意見を取りまとめ、事業主体に伝える。また、事業主体が専門家に正確に伝えているか、専門家がきちんと検討しているか**中立・公正な立場**からチェックする。

「海岸よろず相談所」と「ご意見箱」

- **海岸よろず相談所**は、海岸に関することならどんなことでも相談できる窓口です。
- 皆さんの地域にもご意見を伺いに出向きます。
- 海岸に関する様々な情報を収集し、提供します。
- 宮崎河川国道事務所と佐土原総合支所1Fロビーに「**ご意見箱**」を設置しました。
- いただいたご意見等は、事業主体・関係機関、専門家、市民と**共有し議論に活かします**。



「宮崎海岸市民談義所」の設置について

◇談義所は、勉強会と懇談会を統合して、
以下のような役割と機能を担います

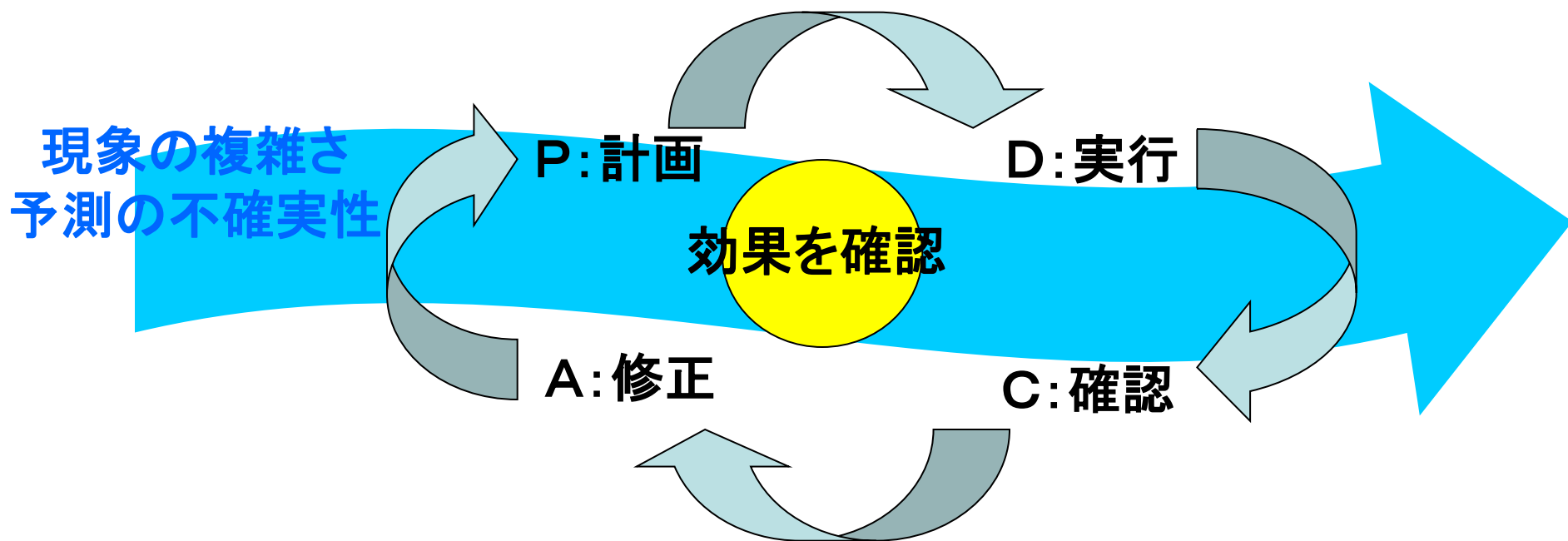
- ①多様な意見をお互いに認識し、知識・情報を共有する
- ②市民と行政のコミュニケーションを充実する
- ③市民がお互いに納得できる、手段を含めた方向性を見いだす

◇ 頻度 : 月1回程度

(4) 宮崎海岸ステップアップサイクル

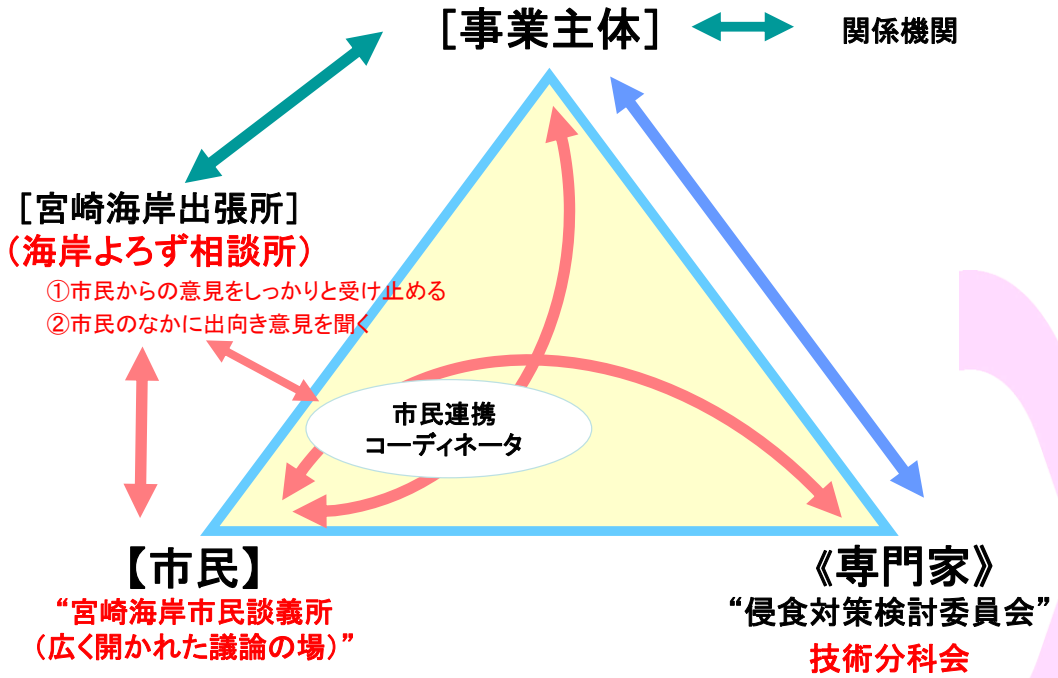
自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、

どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めていきます。

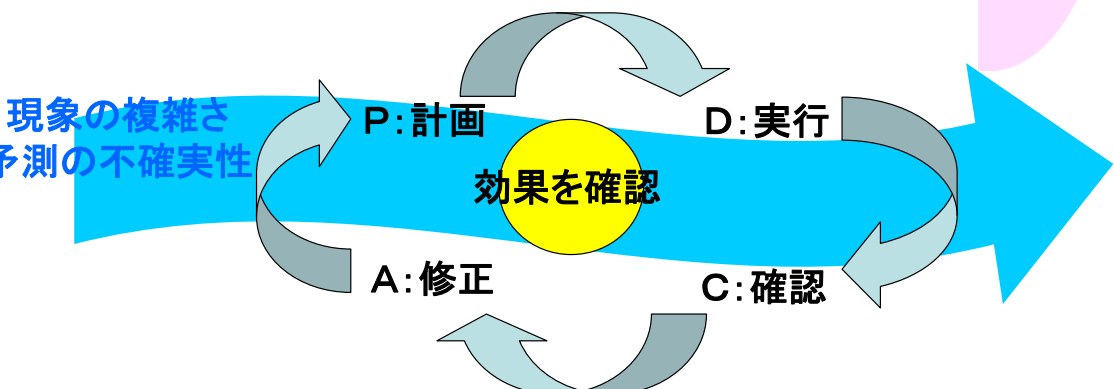


宮崎海岸の未来をいっしょに考えましょう！

宮崎海岸トライアングル



宮崎海岸ステップアップサイクル



砂浜の保全を考
 えることを通して、
 様々な人々が参
 加する場をつくり、
 それを地域づくり
 につなげる。

メモ